

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年12月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4692600028
法人名	社会福祉法人 滴々会
事業所名	グループホーム 音野舎Ⅱ
所在地	鹿児島県南九州市知覧町郡2069番地2 (電話) 0993-58-7181
自己評価作成日	平成29年11月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他人に対し自分自身に対し「明るく・温かい心・笑顔」をモットーとし、入居者との関わり・御家族との関わりを大切に、お互いが気軽に話し合えるような関係を築けるように日々努めています。

また「考える力・想像力」に繋げられるように脳トレと称し簡単な計算問題・文字の練習、想像力を活かせるような塗り絵を毎日実施し午前中のレクとして定着しています。また各ユニット合同でのレクリエーションや外出行事を実施したりユニット同士の交流を深めています。

健康面では併設の訪問看護ステーションの24時間オンコール・定期的な健康チェックを実施しており不安のない毎日を提供できていると思います。年間を通しての大きな行事などは法人全体で行い、隣接の特養・ケアハウス・デイサービス・多機能ホームの方々との良い交流の機会となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、特別養護老人ホームを母体とした社会福祉法人の運営で、同一敷地内に隣接して特別養護老人ホーム・ケアハウス・小規模多機能ホーム等の施設と併設の訪問看護ステーションがあり、イベント実施や職員の協力体制が整っている。
- ・地域行事の豊玉姫祭・なの花祭を見物したり、ホームの火災避難訓練では住民に利用者の避難誘導を協力してもらっている。法人の敬老会・納涼大会・講演会・クリスマス会に多くの地域住民が参加しており、法人全体として地域との交流及び地域貢献に取り組んでいる。
- ・協力医療機関との24時間医療連携体制及び併設の訪問看護ステーションによる健康管理が整っており、利用者が安心して生活できる環境となっている。
- ・職員の外部研修受講の機会を設けたり、法人やホーム内研修を実施し、職員の質の向上を図っている。職員の資格取得のための勉強会等を法人で実施するなど、資格取得の支援にも取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎朝、全員で復唱している。理念に対する意識を高めたうえで業務に入っている。</p>	<p>理念を掲示し、毎朝唱和した後、今日の心がけを読み業務に入っている。年1回はケアを振り返り理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>以前に比べ地域へ出かける機会(行事・買い物)が減ってきているが、法人の行事を通して地域との交流を図っている。</p>	<p>地域行事の豊玉祭やなのはな祭に参加したり、法人の敬老会・納涼大会・講演会・クリスマス会に住民と一緒に参加している。高校生の実習やボランティア受け入れ等にも取り組み、地域との交流に努めている。</p>	
3		<p>○事業所の力を生かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。</p>	<p>認知症家族会の方々、ボランティア慰問の方々には生活の現場を觀てもらったり認知症についての知識・対話法など疑問に感じた事など説明。また推進会議・講演会時も発信の機会となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>生活・活動状況、御家族などの意見を報告し検討。今後の生活支援に活かせるようにしている。</p>	<p>小規模多機能ホームと合同の運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、ホームからの報告や意見交換を実施している。参加者からホームの利用要件についてや介護に関する新聞記事に関連する質問があり、介護やホームについての情報発信の場にもなっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>必要に応じて訪庁したり電話連絡などで助言をもらっている。入居者の生活についても推進会議開催日を利用し実際の状況を観てもらっている。</p>	<p>市担当者に運営推進会議時や窓口に出向いて相談し、ホーム状況等も理解してもらっている。市の研修会や認知症カフェに参加するなど、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>事業所主催の勉強会や法人全体の研修会に参加し「拘束禁止」について全員理解できている。業務の都合で出席出来なかった職員については必ず伝達を行い、施錠に関しても常に解放状態にしている。</p>	<p>法人及びホームでの研修を実施し、職員の理解を深めている。言葉使いについては、気付いた時に注意するようにしている。日中の玄関の施錠はしておらず、外出希望者は、職員と一緒に散歩に行く等、気分転換を図り、制限のない生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所主催の勉強会や法人全体の研修会に全員参加。業務の都合で出席出来なかった職員については伝達を必須とし全員が「虐待防止」を意識して日々の支援に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人全体の研修会に全員参加。業務の都合で出席出来なかった職員については資料の配布、及び伝達を徹底している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に「利用契約」「重要事項」を説明し納得の上で契約に至っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時等を利用し随時状況報告、その中で御家族の意見や要望などを聞きながら本人の状態に合わせたサービスの提供に繋がられるようにしている。玄関には「意見・苦情箱」を設置しており自由に投稿出来るようにしている。</p>	<p>本人には日常のケアの中で要望等を聞いており、家族からは運営推進会議や面会・電話の際に近況説明を行うと共に要望等を聞いている。可能な限り運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>事業所内のミーティングや各事業所が合同で意見交換する機会があり、必要に応じて問題提起し意見や助言をもらっている。</p>	<p>ミーティングや会議では、職員の意見による業務改善やケアの統一に取り組んでおり、負担軽減の為に特別養護老人ホーム厨房での食材購入を行っている。個別相談は管理者が受けて対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>全体会議、運営会議、主任会議などによる業務改善報告、各事業所の主任を通して勤務状況の把握や資格取得のための研修案内、介護職員の職位、職責又は勤務内容などに応じた任用等の要件を定めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各事業所の見回りと職員とのミーティングなど、研修については法人内の全体研修や事業所での勉強会を開催。また外部研修については本人の申し出なども考慮し勉強する機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>人手不足のため以前に比べれば外部の研修・意見交換会などへの参加ができておらず、同業者との交流が図れていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・御家族・各関係者からの情報収集により「その人の状態や想いを知る」という事に努めている。入居後もゆっくり語り合える時間を作り職員全員で協力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「笑顔で気持ち良く対応」「素直に聞く」事を徹底し、話し易い雰囲気を感じてもらえるように努めている。サービス開始後はご本人の状態や生活状況などを随時報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込時や相談時などに、必要と思われるサービスを検討し紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「支援」という考えの下で「できない・苦手な部分を補う」。「できる事は継続」し一緒に片付けや家事作業を実施。その中でやさしい言葉を掛けてくれたりお互いを思いやりながら「ひとつの家族」となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など一緒にお茶を飲みながら語り合う時間を作ってもらったり、状況によって外出・外泊を依頼し、本人の身体状況を理解してもらうと共に家族との関係が希薄にならないように働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや自宅訪問。「思い思いの場所」を懐かしんでもらったり地域の方々との交流が続けられるように努めている。理美容も家族と一緒に出かけたり、本人の案内で行きつけの店に行っている。	墓参りや自宅訪問をしたり、年賀状作成やケイタイの利用も支援しており、家族と受診や理美容に出かける等、家族の協力も得ながら、これまでの生活や馴染みの関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し必要時は席替えをしている。レク活動時の場所（座席）もその都度考えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に応じられるようにしており、御家族の想いを聞きながら必要と思われるサービスの紹介や手続きの方法などを紹介している。退居後もお会いする機会があればお互いに近況を語り合ったり気軽に語り合える関係が築けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時や認定更新時など本人・家族を交えた話し合いを行い生活に対する意向・希望などを確認しサービス計画に反映させている。また日々の生活状態にも注意し家族と連絡を取り合いながら随時対応している。	家族や入居前の利用事業所の情報を参考に、日々の会話や表情等から本人の思いを把握するように努めており、得られた情報は会議や連絡ノートで職員の共有化を図っている。言葉・表情・目の動きにも個性があり、職員で話し合い理解を深めている。困難な場合は、選択肢等の質問を工夫して本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族から聞き取りを実施。また日々の語らいの中から想いを汲み取れるよう「聞く」事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で状態観察に努め、個々の記録に残し「現状」を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>状態にあった生活・サービス提供が出来るように訪問看護師を交えたカンファレンスを定期的に行い実施。また必要に応じて家族との話し合いも行い計画の見直し・変更などにも活かしている。</p>	<p>本人・家族・訪問看護師が参加して担当者会議を実施し、カンファレンス・ミーティングでの職員意見を参考に介護計画を作成している。2ヶ月に1回モニタリングを実施し、3ヶ月に1回の訪問看護師・作業療法士・理学療法士・家族の意見も踏まえ、現状に沿った計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>申し送りの徹底と必要事項は個々の生活記録や毎日の日誌に記録し、全員で共有・見直しや支援手順の実践に活かされている。またケアプランに応じた個々の運動・作業計画を作成し記録を残している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の希望・家族の状況により病院受診や買物代行など対応。体調に関しては併設の訪問看護ステーションが24時間オンコール体制にあり本人・家族の安心感に繋げている。また法人各事業所に来られる理学療法士により機能訓練指導も実施。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議委員に市職員・民生委員・地域代表の方々を依頼。定期的実施する避難訓練の際も地域住民への連絡体制もあり消防署職員の立会いも依頼し協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時は主治医と連絡を取り合い、家族が対応出来ない時は送迎・付添いを行い、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を、家族同行を基本に、ホームでも協力している。協力医との協力体制及び週1回の訪問看護師による健康管理で適切な医療を受けられるよう支援している。緊急時は家族と同行したり、ホームで対応した場合は結果を家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション併設(24時間オンコール)毎週1回は看護師による健康チェック実施。日常的に不安に思う事はいつでも相談できる体制にある。また定期的に合同のカンファレンスを行い医療従事者としての専門的な意見をもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態伺いや経過を知る為にも随時病院訪問し担当看護師との関わりを持つようにしている。また退院間近の時はMSWとの連携により受け入れ体制を調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>加齢に伴い心身機能の低下もあり重度化が避けられない状況にあるが、必要に応じて家族との話し合いや主治医との連携を図り状態に見合った支援のあり方を検討している。急変時の対応については入居時に意向を伺っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた事業所の方針について、入居時に説明している。関連施設で看取り介護をしていることもあり、事業所では現在していない。重度化等の場合は、主治医から家族に説明し、家族の意向を確認しながら支援に取り組んでおり、入院や特別養護老人ホームの選択についてもその都度説明している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>訪問看護師による指導の下、定期的に勉強会を実施し心肺蘇生・AED使用法・機器の取り扱い・応急手当の方法など学んでいる。また法人全体でも勉強会があり全員参加となっている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署職員・地域住民・他事業所職員の協力をもらい定期的に避難訓練・非常招集訓練を実施。法人全体でも風水害に備えた訓練を実施している。</p>	<p>年2回地域密着型の合同避難訓練を、消防署の協力を得て昼夜想定で実施している。夜間想定訓練に住民の参加が有り、利用者の避難誘導をしてもらっている。災害時の備蓄は法人で一括して水・レトルト食品などを準備している。法人全体で非常召集訓練・炊き出し訓練・風水害に備えた訓練も実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に意識して対応に心掛けている。また職員間でも「気付き」の時点で注意し合えるような関係にあり注意・助言を素直に受け入れ自分自身に振り返りの機会として次に活かしている。	プライバシー保護の研修を法人全体で実施し、ホーム職員も参加している。居室のノックや排泄・入浴時のドア開閉に注意している。言葉かけで利用者を傷つけないように、言葉の使い方もその人に寄り添ったものになるように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で職員からの働きかけが必要な状態にある方も少なくないが、個々の可能性を少しでも引き出せるように「待つ」事を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	過ごし方も自分のペースが基本で余暇活動参加なども意向を確認しながら気が向いたら参加して頂いている。外出希望や帰宅願望などがある場合は家族の協力ももらったり職員が付添ったりと本人の「今」を大切にした支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	理美容なども家族と一緒に外出し、馴染みの店で整髪。家族の都合によっては職員の付添いで行きつけの店に行くようにしている。日常着なども本人選択で助言が必要な場合のみ声掛けしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>以前は食材の買い物を職員と一緒に同行していたが、厨房から取り寄せに変わり買い物は行っていない。食事前に献立の紹介し、美味しそうなところを伝えている。</p>	<p>献立は職員が作成し、刻み食やミキサー食等、個々に応じた食事形態で提供している。職員と一緒に食事を摂り、下膳等の片付けをしたり、庭園の春菊・レタス・ジャガイモを収穫している。誕生日の好きな物や行事食の提供、そうめん流しに出かける等、食事を楽しんでもらえるような取り組みを工夫している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立表は法人の管理栄養士に確認・助言をもらっている。個々に応じスプーンや自助具を使用。摂取量は記録として残し変化時の対応に繋げている。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々に応じた口腔ケアを実施。始めは御自分でしてもらい、職員は見守り・確認・補助を行っている。義歯使用者は每晚ポリデント消毒を行っている。</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し随時声掛け・誘導をしている。常に快適な状態で過ごせるようにしている。また変化があればその都度話し合いをしている。	排泄チェック表で個々のパターンを把握し、日中は必要に応じて声掛けやトイレ誘導を行ない、トイレでの排泄を支援している。個々に合わせ、布パンツ・リハビリパンツ・パットを使用している。夜間は個々の状況に応じ、ポータブルトイレを使用したりパット交換をする利用者もある。トイレで排泄できることを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を勧め、体操・館内散歩など体を動かす事に努めている。排便ノートを活用し、便秘症の方は薬剤でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の意向を確認し、拒否のある方に対しては無理強いせず、時間・入浴日の変更など柔軟に対応している。希望時はいつでも入浴可能である。	週に3回時間に関係なく入浴できるように準備している。安全面に注意し好みのシャンプーを使って個浴を楽しんでいる。嫌がる利用者は、タイミングや声のかけ方を工夫している。脱衣場は、ストーブで室温管理している。トイレも近くにあり、スムーズに移動しやすい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望時はいつでも休息出来るようにしている。フロアにもソファを置いており自由に過ごして頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の「薬説明書」を総てファイルし必要時いつでも確認できるようにしている。薬剤は看護師がセットし、職員は2重・3重の確認を行いながら誤薬しないように努め、変化時は看護師・主治医に相談する体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みや草取りなどの手伝いをしてもらっているが介護度も高くなっており特定の利用者だけになっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出希望も聞かれるが職員不足でなかなか外出援助が出来ないのが現状。施設の敷地内を散歩する程度にとどまっている。	天候の良いときは、玄関先で日光浴やレクリエーションをしたり、敷地内の散歩をしている。年間行事での初詣・花見・豊玉姫祭・そうめん流しや個別対応の買い物・墓参り・観劇・ドライブに出かけている。家族と外食や受診・外泊に出かける利用者もあり、できるだけ閉じこもらない生活を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>普段は職員が金銭の管理は行っているが、外出時はお小遣いを渡し自ら選んで好きな物を買えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>現在希望者はいないが、希望があれば対応出来る体制ではある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自席以外でも休んで頂けるようにフロアにソファを設置しておりゆっくりくつろいでおられる。季節を感じて頂けるように利用者と一緒に毎月の壁画作りを行い、飾っている。</p>	<p>玄関は、家庭を思わせるつくりになっている。クリスマスツリーが季節を感じる。フロアは、椅子やテーブル・ソファがあり、好きな場所でゆっくりできる。壁には、職員と利用者の合同作品や写真を飾っている。対面キッチンで対話を楽しむことができる。廊下は広くゆったりとしており、居心地よく暮らしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアのソファで一人ゆっくり過ごされたり、職員も交え数人で座り談笑する姿も見られている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具や小物は馴染みのある使用していたものを持ち込んで頂き安心して居心地の良い空間を提供している。</p>	<p>居室は障子で柔らかい明るさである。ベッド・洋服箆笥・鏡付きの洗面台が設置してある。毛布・遺影・車いす・椅子・家族写真・ハンガー・加湿器等、使い慣れた物を持ち込んでいる。手作りの作品や誕生日メッセージが壁に飾ってあり、寝具はリースで清潔である。安心して過ごせるように配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーになっており安全に歩行が出来るようにしている。場所が分からなくなったり視力の薄い利用者もいるので「トイレ」や部屋など分かりやすいように表記している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない